

第5学年 社会科学習指導案

ろ組 男子 19名 女子 20名 計 39名
指導者 枝 迫 大明

1 小単元 私たちの暮らしと水産業

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに我が国の農業の学習を通して、我が国の農業は、地形や気候などの自然環境や社会的な条件を生かして生産を高める工夫や努力をしていることをとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、我が国の食生活を支える産業に目を向け、国民の食生活がどのようにして支えられているのかということについて関心をもち始めている。そして、実際に資料や地図を活用して詳しく調べたり、調べたことや考えたことを基に、自分の考えを個人新聞などにまとめ、友達に伝えたいという意欲が高まってきている。

そこで、本小単元では、我が国の水産業を取り上げ、主な水産物の漁獲量や主な漁場、主な漁港の分布、生産を高める工夫や努力、水産業にかかわる運輸の働きなどについて追究する活動を通して、自然環境や社会的な条件を生かして生産を高めていることや、新鮮で良質な物を生産し出荷するために様々な工夫や努力をして、国民の食生活を支えていることをいえることをとらえさせるようにする。さらに、地図や写真資料、統計グラフなどの資料活用力を発揮させながら、複数の資料を比較させたり関連付けさせたりして、国民の食生活を支えている食料生産の意味や生産を高める工夫や努力について考えることができるようにする。

このような学習は、我が国の食料生産と国民生活との関連や食料生産における外国との関係を追究する学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

我が国は、豊富な水産資源に恵まれ、生産量・消費量ともに世界有数の国である。また、水産業に従事する人々は、漁獲高を高めるために漁業技術を向上させたり、水産資源の保護に努めてきた。そして、交通網や運輸の働きの発達により、水産物は新鮮な状態で消費者に届けられるようになっている。しかし、水産業を取り巻く環境は厳しく、200海里漁業水域や輸出入などによる国際問題、餌の高騰など、我が国だけでは解決できない問題も多い。

そこで、ここでは、消費者の需要にこたえ、新鮮で良質な物を生産し出荷するために様々な工夫や努力をしていることや、地形や気候などの自然環境や社会的な条件を生かしていることをより具体的に考えられるようにするために、水産業のさかんな地域や、水産業に従事する人々の工夫や努力、交通網や運輸の働きを取り上げていく。特に、近年ブランド化が推し進められている鹿児島県長島町のブリの養殖を取り上げ、価格や費用、交通網について、消費者の需要と関連付けながら我が国の水産業の特色をとらえさせるようにしていく。**その際、単元全体を通して社会的な見方や考え方を深めるために、「記述」、「解釈」、「説明」、「論述」の言語活動を充実させ、調べたことや考えたことを表出させるようにする。**

そのために、まず、子どもたちがよく目にする寿司を取り上げ、水産業が私たちの生活に身近であり、多くの種類の魚介類を食べていることや、それらの魚介類をどのようにしてとっているのかという問題意識をもたせるようにする。次に、学習問題に対する一人ひとりの予想を基に、追究計画を立てさせ、地図や写真資料、統計グラフなどの資料を基に、「水産業がさかんな地域」「人々の工夫や努力」「交通網や運輸の働き」の観点から調べさせる。**そこで、資料の事実を基に根拠を明らかにしながら「記述」させる。そして、自分なりに調べたことに対して、社会的事象の意味や予想を基に「解釈」させる。また、個人やグループで絵図や文にまとめさせたり、自然環境や社会的な条件と生産を高める工夫や努力を関連付けさせて話し合わせたりして、我が国の水産業の概要**

や特色を「説明」させる。さらに、この学習で身に付けた社会的な見方や考え方を発揮させながら、水産業が私たちの食生活にとって密接なかかわりがあることを、学習問題を振り返らせながら個人新聞などに自分の考えを「論述」させるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは国民の食生活を支えている食料生産の意味や生産を高める工夫や努力が分かる楽しさを味わいながら、社会的な見方や考え方を深めていくことになる。

(3) **子どもの実態**（調査人数 39 名、質問紙法、ウェビング図、重複回答、主な質問事項のみ記入）

この学級の子どもたちの我が国の水産業に対する見方や考え方は次の通りである。

1	主な水産業 とると育てる(24) とる(7) 育てる(2)
2	水産業にかかわる人々の苦勞 えさ代(20) 時間がかかる(8) 人手がかかる(3) 大きく育たない(3)
3	主な漁場 枕崎(24) 鹿児島湾(16) 焼津(3) 八戸(2) 気仙沼(1)
4	価格の決まり方 大きさ・色・重さ(26) 鮮度(10) 味(5) 稀少度(4) 産地(2)
5	魚の運輸方法と運輸先 ① 運輸方法 トラック(12) 飛行機(6) J R(1) ② 運輸先 海に面していない都道府県(8) 鹿児島県内(6) 東京(6) 海外(5)
6	資料活用力(①, ②は2つの資料を基にした読み取り) ① グラフや表… 量の変化(39) 関連させた読み取り(26) ② 写真… 相違点(19) 類似点(17) 1つの資料のみ(2) ③ 地図… 200海里(18) 海洋名(5) 海流(5) 大陸棚(2) 潮目(1)
7	取り組んでみたい言語活動 グループや学級全体で話し合いながらまとめる(32) 絵図に整理(31) 友達の考えを知ること(28) 自他の考えの根拠を説明(18) 新たな事実を知ること(21) 箇条書きで整理(14) 自分の考えを説明すること(10)

子どもたちは、生活経験の中で見聞きしたことから、主な水産業については、網や釣り竿を使っていることや水産業にかかわる人々の苦勞、私たちのくらしとのかかわりを大まかにとらえている。しかし、県内の水産業においてのみ知る子どもがほとんどであることから、水産業が我が国の特色としてとらえられるように、我が国の周囲の海流や大陸棚などを地図を生かしながら学習を展開したい。価格や費用については、価格が魚の種類や重さに関連していることをとらえているが、えさ代や人件費などの費用と関連していることをとらえている子どもが少ないことから、具体的に取り上げていきたい。また、子どもたちは、水産業がくらしとのかかわりがあることをとらえながらも、水産業は大変

な仕事であるという一面的な見方や考え方にとどまり、水産業に従事する人々に対する恩恵感を感じていない。そこで、水産業に従事する人々の苦勞や漁港について追究したいという意欲をもっている子どもが多いので、それらの観点を生かして学習を展開していきたい。**子どもたちは、根拠をもって学習していくことが大切であることをとらえているので、調べた事実を追究の柱ごとに整理させて自分の考えの根拠をもたせたり、友達の説明の中で、考えの根拠となっている事実は何かを聞き取らせたりしながら、言語活動の充実を図っていきたい。**

(4) **指導上の留意点**

以上のことを踏まえ、指導に当たっては、次のようなことに留意したい。

単元の学習過程においては、「水産業がさかんな地域」「水産業に従事する人々の工夫や努力」「交通網や運輸の働き」という追究の柱で主体的な追究をさせていく。その際、どの学習過程においても言語活動を充実させるようにする。

ア まず、子どもたちがよく目にする寿司を取り上げ、私たちの身の回りにどんな水産物があるか話し合わせ、食料生産の中でも水産業が大きな役割を果たしていることに気付かせる。また、多くの種類の魚を食べていることや、魚の大きさの違いに着目させ、種類ごとに漁法に違いがあるのではないかとということや、なぜ価格が違うのかという問題意識をもたせたい。そして、我が国の水産業の特色について予想させ、具体的な追究計画を立てさせる。そうすることによって、自分なりの考えをもって、学習を展開できる喜びや楽しさを味わえるようにしたい。

イ 我が国の水産業の特色を明らかにするために、主な水産物の漁獲量や主な漁場、自然環境や社会的な条件を生かした生産を具体的に調べられるようにする。そこで、まず、港の分布図を基に、水産業のさかんな地域が全国に点在し、自然環境を生かしていることをとらえさせる。次に、様々な漁法を示した資料を掲示し、水揚げされる魚に多くの種類があることや漁獲量から、水産物の種類に合わせて漁法があることをとらえさせる。さらに、育てる漁業の特色について、養殖漁業では、自然環境や社会的な条件を生かして行われ、消費者の需要にこたえてい

ることをとらえさせる。そこで、「水産業に従事する人々の工夫や努力」においては、鹿児島県長島町の養殖ブリの生産から、価格や費用、交通網について取り扱い、消費者の需要にこたえる生産や運輸の工夫に気付くようにする。そのために、新鮮で良質なものを生産し出荷していること、価格や費用、交通網について考えられるようにする。**その際、価格と費用にどのような関連があって、私たちのくらしとかかわっているのかを説明できるようにしたい。**そして、栽培漁業では、水産資源の保護、育成を図るという重要な役割を果たしていることに気付かせたい。

ウ 追究した結果、自分なりに分かった我が国の水産業の特色について予想したことを振り返らせたりしながらまとめさせる。そして、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることが食生活を支えているというありがたさを味わわせるようにしたい。

3 目標

- (1) 我が国の水産業の特色について関心をもち、これまでの学習や生活経験を振り返りながら取り組むことができる。
- (2) 我が国の水産業について、水産業の盛んな地域や水産業に従事する人々の工夫や努力、運輸などの働きについて調べ、水産業とわたしたちのくらし、水産業と自然環境や社会的な条件を関連付けながら、我が国の水産業の特色を考えることができる。
- (3) 自分の調べたことを明確にしていくために、我が国の水産業の特色について分かったことを、構造的に図に表現したり、個人新聞にまとめたりすることができる。
- (4) 我が国の水産業に従事している人々が生産を高め、消費者の需要に応えるために漁業技術の改善や漁場の保全などの工夫や努力をしていることをとらえ、その働きが国民の食生活を支える水産資源の保護や育成という重要な役割を果たしていることに気付くことができる。

4 指導計画(全11時間)

学習過程	主な学習活動	学び合う喜びや楽しさの深まり	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる ① 調べる ⑧ まとめ する ②	1 寿司ネタと魚の消費量、価格を基に気付いたことや疑問に思ったことから学習問題を設定する。 水産業に従事する人々は、どのようにして魚介類をとっているのだろうか。 2 学習問題について予想し、調べる内容や方法について追究計画を立てる。 [調べる内容：追究の柱となるもの] ○ 主な生産地(遠洋、沖合、沿岸) ○ 水産業に従事する人々の工夫や努力 ○ 価格や費用、交通網との関係 [調べる方法] 教科書、資料集、インターネット資料等 3 水産業のさかんな地域を調べる。 4 とる漁業に従事する人々の工夫や努力について調べる。 とる漁業に従事する人々の工夫や努力 沿岸漁業 → 生産を高める → 輸入 200海里安全 沖合漁業 → 工夫 遠洋漁業 5 養殖漁業や栽培漁業に従事する人々の工夫や努力について調べる。 育てる漁業に従事する人々の工夫や努力 養殖漁業 → 水産資源の保護・育成 → 安定した収穫と収入 自然環境を生かした養殖 栽培漁業 6 養殖漁業に関する価格や費用、交通網について調べる。(本時) 運輸の働きと運輸の費用 鮮度や出荷先を考えた運輸 → 価格に直接関係する 消費者の需要にこたえるため 7 これまでの学習を基にして、個人新聞にまとめる。	学び合う喜びや楽しさの深まり たくさんの種類の魚がいるな 魚の大きさが違うな 同じ魚でも価格も違うぞ。何か秘密があるのかな 同じ魚なのに、どうしてとり方が違うのかな。工夫があるのかな 魚に合わせた漁法でとっているのだな 海流と港の位置が関係しているな 国内だけではなく、海外に出かけてとっているのだな とる漁業は減っているけど、育てる漁業が増えているな 養殖漁業は自然環境を生かしているのだな 栽培漁業は水産資源を守っているのだな おいしいブリを育てるために、餌や環境に気を付けているのだな ブリを育てるために、多くの費用がかかり、運ぶお金も含まれているのだな 消費者の需要にこたえるために、多くの地域に新鮮なまま運んでいるのだな 我が国の水産業にはどんな特色があると言えるかな	教師の具体的な働きかけ ㊟ 写真(寿司ネタ) ○ 魚の消費量の多さをとらえさせるために、寿司ネタや自分たちが食べている食事を振り返らせ、魚が多く割合を占めており、様々な種類や価格の違いに気付かせる。 ㊟ 写真(魚の一本釣り、巻き網漁) ○ 「とり方に工夫があるのではないか。」という疑問をもたせるために、一本釣り巻き網漁を比較させて話し合わせる。 ㊟ 日本地図(国内の主な漁港) ○ 漁港によって水揚げ高やとれる魚と海流を関連付けて話し合わせる。 ㊟ 世界地図(200海里漁業水域) ○ 漁獲量や様々な種類の魚を確保するための努力をしていることをとらえさせるために、漁業を行っている海洋を調べさせる。 ㊟ 写真(ブリの養殖) ○ 養殖業が伸びていることから、水産業と自然環境との関係をとらえさせるために、ブリの養殖場の写真を基に、海岸線に着目させて、その働きについて考えさせる。 ㊟ グラフ(ヒラメの放流数と漁獲量) ○ 水産資源を守る工夫をとらえさせるために、「なぜ放流数が増えているのだろうか。」という問いをもたせるために、大きな魚だけとっている事実を基に話し合わせる。 ㊟ 世界地図 ○ 運輸にかかる費用と各地の価格の違いが場所によって違うことに気付かせるために、輸送経路などと各地の価格を関連付けて説明させる。 ○ これまでの学習を振り返らせるために、学習問題に対する自分の考えを明らかにさせる。

5 本時 (8/11)

(1) 目標

ア 養殖漁業の運輸の働きと運輸の費用について、消費者の需要にこたえるための工夫や努力に共感したり、これまでに高まってきた見方や考え方を生かしたりしながら、意欲的に追究することができる。

イ 養殖漁業の運輸の働きと運輸の費用について話し合うことを通して、魚の価格には消費地に運ぶ費用が含まれることや、出荷先などによって変わることを、輸送経路や輸送手段と関連付けてとらえることができる。

(2) 指導に当たって

本時の展開に当たっては、消費者の需要にこたえるための運輸の働きであることをとらえさせるために、**ブリの価格に占める運輸の費用の割合や場所によって価格が変わることを関連付けさせ、鹿児島県を中心とした交通網の広がりをもとに説明させるようにしたい。**

(3) 実際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の追 具究 体問 化題	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 なぜ、同じブリでも価格がちがうのだろうか。	10	㊦ 絵図(鹿児島と東京のブリの価格) ○ 「同じブリなのに、なぜ価格が違うのだろうか。」という問いをもたせるために、価格を比較させながら話し合わせる。
	2 学習の進め方や資料について話し合う。 ・ 一人調べ→グループでの話し合い→全体での話し合い ・ 資料→教科書、資料集、自分の考えの根拠となるもの、グループのまとめ		○ 本時の学習の進め方を明確にし、見通しを持った追究ができるようにするために、前時で学習した育てる漁業を振り返らせながら追究させるようにする。
計追 画究	3 運輸の働きや費用について話し合う。 (1) 運輸の働きについて話し合う。 (2) 運輸の費用について話し合う。	28	㊦ 写真(出荷先を選ぶ様子) ○ 情報を活用した輸送をしていることをとらえさせるために、主な消費地に出荷していることに気付かせる。 ㊦ 日本地図 ○ 高速道路が全国各地とつながっていることをとらえさせるために、鹿児島県と主な消費地を基に指でなぞらせる。
	<p style="text-align: center;">運ぶ工夫と価格</p>		○ 価格と費用を関連付けた説明をさせるために、鹿児島県とヨーロッパ、鹿児島県と東京のつながりを明らかにさせ、輸送距離の違いと価格の違いを地図を基に関連付けさせられるようにする。
追 究 問 題 の 究 明	4 本時の学習についてまとめる。 価格には、生産にかかる費用や運ぶときの費用がふくまれているからである。	7	○ 運輸にかかる費用と各地の価格の違いが場所によって関連していることに気付かせるために、輸送経路などと各地の価格を関連付けて交通網の広がりをもとに説明させる。
	5 次時の学習について話し合う。 ○ 我が国の水産業の特色についてまとめる。		
ま と め			